



ヒカルランド

ウズメ

—先祖の霊など宿っていない—

墓と仏壇の
本当の話

そこに宿っているのは何者なのか?!
人々はまだ一切知らない
叡智と能力によってもたらされた
真理と真実の福音の書

まえがき

あなたはお墓や仏壇に、ご先祖様の魂が宿っていると信じていますか？

本当に心底信じている人は、お墓と仏壇のどちらに宿っていると思っ
ているのですか？
それとも両方に宿っていると思っ
ているのですか？

宿っているとしたら、死後、いつまで宿っていると考えているのですか？

お墓、仏壇は、大切です。しかし、何故大切で、どのように大切にしなければ
ならない
のでしょうか、お墓と仏壇の本当の意味を知っている人は、日本にはほとんど
いません。

実はお墓や仏壇と、死者の魂とは、何の関係もないのです。もう一度
いい
ます。お墓や
仏壇には死者の魂が宿っていることは、全くありません。

日本のことなのに、何故こんな当たり前のことを日本人が知らないの
でしょうか。

しかし、死者は宿っていません、墓や仏壇は大切にしなければいけ
ない
のです。なぜ

なら、お墓や仏壇には、日本人がまだ明確に認識していない、非物理的存在が宿っているからです。

本書では、非物理的世界を交えて、お墓と仏壇の本当の姿を明かします。それは、お墓と仏壇の認識が変わるだけではなく、これからのあなたの生き方をも変えてしまうでしょう。

もしあなたが、様々な分野の先生と呼ばれる専門家の方々に相談しても、問題がなかなか解決しないとお悩みならば、この本があなたにとって福音となります。

本書があなたの人生にとって大切な道しるべとなることを願ってやみません。

目次

まえがき 1

墓と仏壇の

本当の話

—先祖の霊など宿っていない—

第一章

墓石を捨てた

|| 墓石に宿るスピリッツ ||

- ・ご先祖様の崇り? 10
- ・スピリッツの呼びかけ 11
- ・スピリッツの怒りの原因 14
- ・スピリッツと人間の価値観の違い 17
- ・スピリッツの食の好み 24
- ・スピリッツの合図 28
- ・スピリッツの意識は家系の一番上の男に向く 31

ウズメ

・スピリッツの問題と寿命 34

・奇跡のヒーラーとスピリッツの問題 38

第二章

仏壇を替える前に

Ⅱ 仏壇に住まうスピリッツ Ⅱ

・仏壇の本当の意味 42

・本当の先祖供養とは 44

・スピリッツ鑑定 46

・スピリッツとの会話の手段 49

・「天の扉開き」で出現した神聖物とスピリッツによる影響力 52

・スピリッツ鑑定の解決策 56

・お寺の閉眼供養との違い 58

・スピリッツとの交渉術 62

・お供えの効力 67

- ・仏壇と故人の写真 74
- ・仏壇に供えてはいけないもの 77

第三章

スピリッツと幽霊との違い

- ・スピリッツと幽霊の概念 82
- ・お墓、仏壇、神棚のスピリッツ 84
- ・スピリッツの大きさ 88
- ・スピリッツの種類 90
 - ルーシー 90
 - エンティティ 91
 - バッドスピリッツ 109
- ・バッドエナジーとバッドスピリッツの違い 110
- ・スピリッツが人間に恋をする 114
- ・旧陸軍の英霊を守るスピリッツ 120

第四章

幽霊もいろいろ

- ・一緒に暮らしていた3人の幽霊 132
- ・階段に座る子供の幽霊 136
- ・幽霊とバッドスピリッツの合体 138
- ・魂の救済 昇天の儀式 140
- ・崇りの真実 142
- ・自殺者の魂 145
- ・お墓と仏壇に幽霊がいる理由 149

第五章

日本人は知らない

- ・肉食と酒が駄目な理由 154
- ・神社に神はいない 157

- ・パッドスピリッツより恐ろしいチャオカンナイウエイ 162
- ・チャオカンナイウエイに殺されたタイの女性 165
- ・日本の地鎮祭とスピリッツハウス入魂の儀式の違い 167

第六章

死んだらどうなるのか

- ・死ぬ目的 何のために人は死ぬのか 178
- ・死後の世界 180
- ・地獄の様子 182
- ・お盆は何をすればいいのか 184
- ・なぜ死後のことがわかるのか 185
- ・徳分を捧げる最も良い期間 188
- ・自分の徳分を先祖に送ることができる 190
- ・タイの葬儀と日本の葬式の違い 191
- ・過去世を忘れる理由 195

墓と仏壇は本当は 何をすべきなのか

・先祖の魂に対して本当にすべきことは何か

200

・墓、仏壇は何をするためのものなのか

202

あとがき

204

装丁 takao kadesign

校正 麦秋アートセンター

本文仮名書体 文麗仮名(キャップス)

第一章

墓石を捨てた

|| 墓石に宿るスピリッツ ||

・ご先祖様の祟り？

「お墓参りをしなかったら、バチがあたる！」

「仏壇を捨てたら、祟りたたがおこる！」

日本人なら、耳にしたことがある話であろう。これは根も葉もない話しではなく、昔から実際にそのようなことが起きているため、そのように言われ続けている。

では、そのバチは、祟りは、誰が何故起こしているのだろうか？

「ご先祖様が怒っているから。」と日本人は答えるだろう。

本当に？ あなたのご先祖様は、子孫を苦しめようとする、そんな酷い人ひどだったのですか？ そんなことを言われたら「私のご先祖様を馬鹿にするな！」と怒らないといけない。私は多くの墓や仏壇を鑑定してきたが、先祖の魂、あるいは人の霊が宿っているのを見たことはない。

ならば、バチは、祟りは、誰が起こしているのか？

その答えは、私のこれまでの実際の体験と、それを裏付ける叡智えいちの学びの中にある。それは非物理的世界のことなので、信じられないこともあるだろう。しかし、体験そのものは事実である。

本書を読み終えた時には、あなたの中に違う世界が広がっているだろう。では、新しい世界をご案内しよう。

・スピリッツの呼びかけ

「何をそんなに怒っているの？」

『人間が長の居場所おきを奪ったのだ！』

「どうしてほしいの？」

『長の場所を元に戻せ！ そして謝れ！』

「わかったよ。伝えてみるね。」

これは、人間同士の会話ではない。

私は、とある墓場に来ていた。山あいの小高い場所にある集合墓地だった。何故そのよ
うな場所に行くことになったのか。

私の霊性の師であるスワミのもとに、ある夫妻が訪ねて来られた。ご主人が肺癌のため、
スワミによるヒーリングを受けに来られたのだ。

そしてスワミは指摘した。

「病気の本当の原因はお墓を作り変えたためだ。」

その後、スワミが墓場で謝罪の祈りの儀式を行なうため、私も同行することになったの
だ。

墓場に向かう車内で、私は自分と伴にいる神聖な存在に対して、静かに祈った。

「何か先にわかることがあれば教えて下さい。」

すると頼んだ相手とは違う別の存在が、私の頭の中に映像を映し出し、話しかけてきた。

いくつもの墓が並んでいる場所が視える。

『人間が……した。……で格好悪い。……皆の前……恥ずかしい。』

「何？ よくわからない。後でね。」
頭の中で返答した。

私が何らかの存在と会話を交わす場合には、電子機器に触れていると感度が下がり、車の中だと精度も下がる。まるで壊れたラジオを聴いているような感じで、全ては聞き取れなかった。まだ現場を見ていないため、私はこの話の意味がよくわからなかった。

墓の持ち主の夫妻と同行していたので、視えた内容を簡易的に伝えた。
「集合墓地のような映像が出てきて、何かを恥ずかしいと言ってますね。」

私は祈りを捧げることで、縁のある神聖な存在が答えを教えてくれる場合がある。頭の中に映像で答えが映し出されるのだ。

しかし、相手がこちらに伝えたいことがある場合は、無理やり映像を視せられることがある。私と縁があるのではない関係なく、非物理的存在が自分の言いたいことを伝えるために、私の頭の中に勝手に映像を映し出すのだ。私は一時期この能力に大変苦悩したため、普段は映像が映し出されないように遮断している。

自分と縁のある神聖な存在に祈りを捧げた時のみ視ることにしているが、たまにこのよ

うにわりこみがあるのだ。

・スピリッツの怒りの原因

墓場に着くと、そこは自然の中にある古い墓場で、石も自然石を使われているような墓ばかりだった。

自然の中の木、岩、花などに宿る存在達が私に話しかけてくる。人間と場所を共存する非物理的存在達には、人間のおこないに対する悩みが常々ある。そのため、自分達のこと分かる人がやって来ると、われもわれもと話しかけてくるのだ。

『人間に酷いことをされたんだ！』

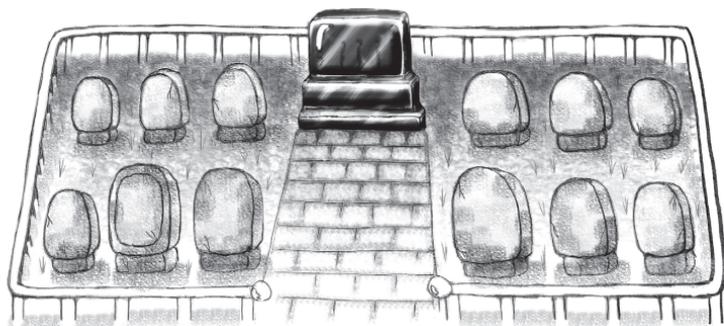
『ねえ、あの人に伝えて。』

『何をしにここへ来たんだ？』

『お話しましょう。』

きりがないので、一言だけ伝える。

「今日は別の目的で来てるから聞けないよ。ごめんね。」



私は寄り道することなく、目的の墓に向かった。

そこは、墓石がいくつも並んでいた。家系の墓であることが一目でわかる。事前に見た映像通りだった。

墓を見た瞬間に原因がわかった。

敷地の1番中心となる場所に、先祖の名や没年月日などが刻んである、大きく立派な墓碑があった。まだ新しく、ツルツルに磨かれた美しい黒石の墓碑だった。

その墓碑には「何も宿っていなかった」。

しかし、まわりの古い墓石には、「スピリッツ」が宿っていた。

スピリッツというのは、神様や天使のように天界にいる神聖な存在ではない。地上にいる幽霊のことでもない。肉体を持たないため、人間の目には物理的には見えない。しかしこの世界の様々な場所に住んでいるのだ。そして

人間を含め、現実世界に影響を及ぼせるほどの力を持っている。

この存在のことを、「スピリッツ」という。

日本語には、このスピリッツに相当する確な言葉が存在しない。なぜならば、スピリッツに関する概念と叡智が日本には伝わっていないからだ。そのため、仕方なくスピリッツというラテン語を使うことをお許しいただきたい。

土地に宿るのは地のスピリッツ。井戸や池など水に宿るのは水のスピリッツ。スピリッツの存在が、人間にとって良いか悪いかは、人間の行ない次第。

日本では「八百万やおよろずの神」とよぶ場合もある。それは日本人は昔より、人々に都合の良いことをもたらす非物理的存在のことを、ひとくくりに「神」とよんだためである。

夫妻に尋ねると、現在墓碑が置かれている場所には、元々一番主となるご先祖様のお墓があったが、場所を移動させたそう。墓石の台座となる石も捨てた、とのことだった。そして新たに、墓の周辺を囲む柵をつけたようだ。

(なるほど。この大きな墓碑を置くために、ここに住むスピリッツ達の長である墓石の場所を移動させ、台座の石も捨てた。このことがスピリッツ達の逆鱗げきりんにふれたのだな。)とわかり、スワミと夫妻に伝えた。

・スピリッツと人間の価値観の違い

スワミが墓石に宿るスピリッツに対する謝罪の儀式を始めた。私は、真ん中手前の墓の前、柵の外に座っていた。

儀式の途中に、目の前の墓石に宿るスピリッツが、物凄い剣幕で話しかけてきた。

『人間が我々の長の居場所を奪ったのだ！』

詳しく聞くと、そのスピリッツの話では、スピリッツの宿った石を後から人間が墓石にしたわけではなく、スピリッツが好む石が墓場に設置されていたので、スピリッツの格の高さの順に、石に宿ったらしい。

その後人間が、スピリッツ集団の長の宿る墓石を格下の場所に移動させた上、台座の石も捨てたそうだ。そのため、長の墓石の高さは他の墓同様の高さになっており、長が居た元の場所には、ツルツルピカピカの美しい大きな黒石の墓碑が設置されていた。

『あんな石を置かれて、恥ずかしい。』

このスピリッツの話しによって、この時に初めてわかったことがあった。地のスピリッツ

が宿りやすい物の一つに、石があるのだが、スピリッツにも“好み”があるらしい。

どうやら“人間の価値観とは逆”である。

より自然な状態を好み、風化しているようなポロポロの石ほど、スピリッツ達からすると、『格好良い』という認識のようだ。

そしてツルツルに光っているような綺麗に加工してある石は、『格好悪い』という認識らしい。

そこから見える他の場所には、違う家系の墓がいくつも建ち並んでいた。私が見渡す限り、確かにスピリッツが宿っている墓はポロポロの墓石ばかりで、ツルツルに磨かれたような綺麗な墓石には、スピリッツは一体も宿っていなかった。

車の中で聞いた話しの『人間が……した。……で格好悪い。……皆の前……恥ずかしい。』の“皆”というのは、自分達の縄張りの外の、他のスピリッツ達のことであった。“恥ずかしい”というのは、『こんな格好の悪い物を自分達の縄張りの中心に置かれ、自分達が守っている長をないがしろにされて、恥ずかしい。』ということだった。

「ああ、さっき（車の中にいる時に）話しかけてくれたのは、あなただったのね。ありがとう。」と礼を言った。



私の場合、スピリッツの姿が見える場合と、姿は見えないが話は出来る、という場合がある。この時は、一瞬だけ姿が見えた。

男のスピリッツだった。角は無いが鬼のような体格で、右手に細く長い棒のような物を持って立っていた。とても力があるように感じられるスピリッツである。

長を守るスピリッツの話では、本来は長の宿る墓石が墓碑の位置にあつたらしい。

中央挟んで向かって右側の墓石にも同じような風貌の、力のありそうなスピリッツが宿っていた。その他の墓石にもスピリッツが宿っていたが、中央から離れるほど、力の弱いスピリッツが宿っていた。中央奥に居た長であるスピリッツを、この手前両脇の二人のスピリッツが守っている形だ。

長が宿る墓石



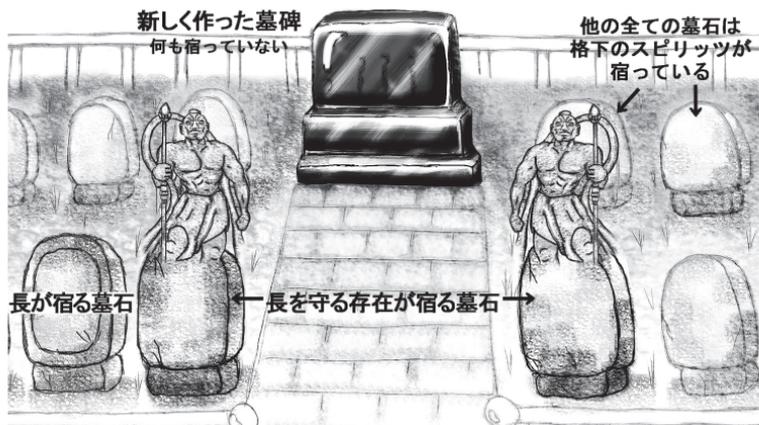
よく寺院の山門の両脇に、仁王像が立っている。仏敵を退散させる守護神として、立っているが、見た目がそれに近い。

本来そういう姿のスピリッツなのか、それとも自分達が長を守っている、という意識から、そのような姿をこちらに見せているのか、どちらなのかは分からなかった。

その後、墓が作り変えられ、現在の墓の位置になったそうだ。

謝罪の儀式は、供物を載せるテーブルを置いたため、敷地の中央しか場所が無く、黒石の墓碑の前でスワミは儀式を行っていた。

長を守っているスピリッツが激しく訴えかけてくる。



『おい、なぜ、あれ（黒石）の前で（儀式を）やっているのだ。』

「あそこしか場所がないのだから仕方がないでしょう。」

『長の前でやるべきだろ！』

「ここは柵があるのだから無理でしょう。」

『この柵も人間が勝手につけたのだ！』

「わかった。後で伝えるから。」

儀式を終えたスワミと、立ち会っていた夫妻に、スピリッツの話伝えた。

今の立派な墓碑を撤去して、元通りに戻すとなれば、大変な費用がかかる。そのうえ儀式を後日やりなおさなといけない。夫妻に対してもスワミに対しても、とても言いづらい話であった。

「移動させられた長のスピリッツが怒っているわ

けではないんです。『人間が自分達の長に失礼なことをした』と、長を守っていたまわりのスピリッツ達が、激しく怒っているんです。」

すると、スワミはこう言った。

スワミ 「じゃあこの墓石とこの墓石を、入れ替えたらいんじゃないか。」

ウズメ 「この墓石に宿るスピリッツよりも、この墓石に宿るスピリッツの方が、位が高いようなので、それはやめた方が良いでしょう。」

スワミ 「じゃあ、これとこれを入れ替えたらいんじゃないか。」

ウズメ 「いや、そうすると、この墓石に宿るスピリッツから不満が出ます。『何でおまえがそこに居るんだ』という話になるので。」

スワミ 「じゃあ、これとこれと、これとこれを入れ替えたら。」

ウズメ 「いやいや、パズルじゃないですから。偉い順があるようで、墓を入れ替えると余計ややこしい話になるので。」

私は夫妻とスワミに真剣に頼んだ。

「大変だと思いますが、この墓碑を撤去して下さい。それから捨てた台座の代わりになる自然石を探して下さい。可能な限り、捨てた石と似ている石が良いです。その石を台座に

して、墓を元の位置の高さに戻して下さい。このまわりの柵も取って下さい。その後には謝罪の儀式をもう一度おこなった方が良いでしょう。」

夫妻もスワミも快く承知してくれた。

続けて私は注意せねばならない大切な話を伝えた。

「スピリッツと約束事をする場合、期限を決めて、それまで怒らないで待っていて下さい」とお願いをして、待つてもらいます。その期限までに必ず工事を終えて下さい。そして工事の後、もう一度謝罪のプジャを行って下さい。期限は確実に守れる期限にすることです。もしもその期限を破ったならば、スピリッツとの約束を破ったことになり、大変なことになります。」

夫妻は「はい、分かりました。年内にはやります。」と承知して下さいました。

後でスワミとこのような話をした。

ウズメ 「墓場にいるスピリッツは、かなり古い自然石の墓石に宿っていることが多いようです。自然の中の古い墓場に問題が多いのは、スピリッツが多く住んでおり、価値観の異なる人間との衝突があるからです。反対にツルツルに加工した綺麗な墓石は、スピリッツの好みではないため、一体のスピリッツも宿っていませんでした。」

スワミ「じゃあ全ての墓をツルツルの強化プラスチックで作れば、スピリッツは嫌がって墓に宿らなくなるから、墓のスピリッツの問題は無くなるな。」
ウズメ「そうですね。風情は皆無ですが。」

二人で笑いあった。

・スピリッツの食の好み

この墓場の区域の入り口付近には、大きな木が四本立っていた。

その木に宿るスピリッツ達がこちらに注目して、一部始終を見ており、『大変だねえ。』とささやいていた。見られていることに気づいてはいたが、少し離れていたもので、とくにこちらから話しかけることはしなかった。

こういった木に宿るスピリッツのことを、日本人は、『木の精霊』などと呼ぶのだろう。

私が墓場から立ち去ろうとした時、木に宿る一体のスピリッツが話しかけてきた。

『工事が始まる前に手土産を持って、もう一度来るといい。工事開始の日時と工事の理由

を知らせに、挨拶に来た方がいい。』

私は礼を言った。

「確かにそうですね。教えて下さりありがとうございます。」

すると、木に宿るスピリッツが頼みごとをしてきた。

『自分にもお土産を持ってきて。あと横のあの子達にも。』

「何がいいですか。蜂蜜でいいですか？」

『酒がいい。』

「分かりました。」

スピリッツと交流する場合、この手土産が重要なポイントになる。

人間同士でも、何かでお世話になる時、礼を言いに行く時、謝罪をしに行く時、手ぶらではなく手土産を持っていくだろう。この手土産が相手の好物だったなら、話もしやすくなる。

スピリッツの場合は、この手土産は立派な“供物”となるのだ。

スピリッツに何か頼む時、助けてもらった礼を言う時、謝罪する時などには、供物が重要なことになる。

スピリッツもそれぞれの好みがあるため、本当は供物を捧げるスピリッツに直接聞くのが一番良いのだが、参考までに一般的に好むものを、ここに記しておく。

これまで私は日本の様々なスピリッツ達に、何が好物か、供物は何が良いか、直接聞いてまわったことがある。

男のスピリッツの好みの一位は、酒だった。

日本にいるスピリッツだからなのか、ワインやシャンパンではなく、日本酒を好んだ。とくに力のありそうな男性的なスピリッツほど、酒の要望が強かった。

女のスピリッツや、妖精や小人のような弱いスピリッツは、酒より甘いジュースや、飴、蜂蜜、果物などを好んだ。

日本のスピリッツに限るのかもしれないが、男も女も、菓子は洋菓子より和菓子を好んだ。紅白の団子や、笹の葉で包んだ団子や、草団子など、葉の香りが残っているような団子の匂いが好きなスピリッツは多い。

スピリッツ達は捧げ物をして、その物質を物理的に食べるわけではない。食物の「力」

と、「香り」を楽しんでいるのだ。

そして、日本のスピリッツは、日本の土地からとれた物をとくに好んだ。もっと細かく言えば、そのスピリッツの住む地方でとれた物が一番良い。

実際に以前、こういったことがあった。

安曇野に、私が普段から親しくしているスピリッツがいる。いろいろなことを教わり、助けられてきた。私は感謝の気持ちから度々供物を捧げ、良い関係を築けている。

ある日、私は買い物の前に、安曇野のスピリッツに直接尋ねた。「今からお供えの果物を買ってきますが、何が良いですか？」すると『安曇野でとれた果物』と言われた。

バナナやみかんと果物を指定されるよりも、産地を指定される方が入手が難しくなり、困ったことがあったのだ。

この時に、安曇野のスピリッツに直接教えてもらった話がある。

例えば、日本のスピリッツにお菓子を供える場合は、洋菓子よりは和菓子。和菓子にするのならば、目新しい新種の和菓子よりは、昔ながらの和菓子。同じ和菓子を買うなら、違う土地で作られた物よりは、供物を捧げたいスピリッツが住んでいる土地で作られた物



※高貴なスピリッツが宿っている安曇野のスピリッツハウス

スピリッツに対しての供物の話であるが、どこまで対応できるかは、捧げる側の熱意と誠意次第である。

・スピリッツの合図

工事開始の日程がわかった後、私はスピリッツ達への手土産を持って、スワミと二人で

が良い。

酒なら洋酒より、日本酒。可能ならば、供物を捧げたいスピリッツが住んでいる土地で作られた酒。

果物なら日本でとれた果物。可能ならば、供物を捧げたいスピリッツが住んでいる土地でとれた果物が良いらしい。

あくまで神仏に対してではなく、スピ

墓場に出向いた。

各墓、各木に宿るスピリッツに捧げる供物は、酒やジュースの要望が多かった。私は大きな箱に重い供物の数々を入れて両手で持ち、足場の悪い墓場の急な斜面を登った。

まず、入り口の四本の木に宿るスピリッツ達に挨拶をする。

各木の根元に五本の線香をさし、酒をそれぞれの木の前に供えて、礼を言った。

「約束通りお土産を持って来ました。教えて下さりありがとうございました。」

線香というのは、供物の意味だけではなく、「ノロシ」の意味もある。

インドの神、タイの神、お釈迦様、イエス様、死者、スピリッツなど、各対象によって、捧げる本数が異なるのだ。例えば、スピリッツの場合は五本となる。死者の場合は一本である。

再び重い供物を持って、スピリッツ達が待ちかまえる墓に辿りつく。

墓の前の土に五本の線香をさし、酒、甘いジュース、草の香りがする草団子など、各墓のスピリッツの好みのものを、それぞれの墓の前に供え、祈った。

「〇月〇日から、ここで工事が始まります。それはお墓を元に戻すための工事です。どう

ぞお許し下さい。工事が終わりましたら、また手土産を持ってご挨拶に来ます。それまでどうか怒りを鎮め、お待ち下さい。」

そして三十分程、その場から離れた。スピリッツに落ち着いて供物を召し上がってもらうためだ。

この日はかなり雨が降っていた。供物を墓前に捧げている時も、傘を持ちながらはできず、私はずぶ濡れになってしまっていた。

しばらくして墓に戻ると、スワミが喜びの声をあげた。「スピリッツは喜んで食べたな。これだけの雨の中、線香が最後まで燃え尽きている。」

これはスピリッツからの合図でもある。もしスピリッツに捧げ物をして、途中で線香が消えてしまったら、それは「気に入らなかった」という意味になる。そして最後まで消えずに燃え尽きたら、スピリッツは供物を「気に入ってくれた」という意味になるのだ。

しかもこの日は傘をささないとずぶ濡れになるほど雨が降っていたが、線香の火は最後まで消えずに燃え尽きていた。

私達は安堵して、帰ることができた。